

板垣公一教授定年退職記念号によせて

経済学部長 大 庭 清 司

板垣公一教授は、本年3月に定年を迎えられ、名城大学を退職されることになりました。長年にわたる名城大学商学部とそれにつづく経済学部にたいする先生の貢献に感謝の意を表する次第です。

先生は、1972年に関西学院大学大学院文学研究科博士課程を満期退学した後、名城大学商学部に講師として着任されました。以後同学部助教授、教授を経て、2000年から経済学部産業社会学科教授を勤められ、通算して36年にわたり本学の研究教育の発展に寄与されました。その間、日本文化社会論、人生と文学、専門ゼミ、基礎ゼミなどを担当され、多くの人材を育てられました。

研究面については、近代日本文学分野では、森鷗外、永井荷風研究、現代日本文学分野では、志賀直哉研究、堀田義衛の現代社会評論研究を主な研究テーマとしています。

鷗外文学では近代化と伝統文化、また荷風文学では日本近世知識人と西洋近代文化との接点、志賀文学では近代日本人、とりわけ民衆の「近代化の感性」、が先生の主たる関心事でありました。

主論文に、「森鷗外の史伝——『渋江抽斎』論——」「森鷗外——歴史小説の研究」「『濠東綺譚』論——主題論「夢空間との出会いと離別」」「『ひかげの花』論」「『暗夜行路』論——日本文化・社会論の視座から——」などがあります。

教育面では、社会生活にたいする基礎的な対応能力を持った学生の育成を目的とし、IT技術や、リクレーションを取り入れたユニークな授業の遂行に注力されました。

先生は、大学行政面でも、学務センター委員、全学共通教育協議委員会委員、経済・経営学会議長などを歴任し、名城大学の発展のために尽力されました。また、2003年11月から2年間、名城大学教職員組合執行委員長としてリーダーシップを発揮されました。

このような先生の研究、教育、大学行政に対する長年のご苦勞とご功績に心から感謝し、ここに定年退職記念号を刊行し、先生に捧げたいと思います。今後は健康に留意されて、これまで以上にご活躍されることをお祈りし、定年退職号によせる言葉といたします。